

## 平成から令和へ 口加の新たな船出 ～イチロー選手の言葉を胸に～

校長 狩野 博臣

平成31年4月1日。校長室の窓を開けると心地よい春風が入り込んできます。部屋から見える桜はまだ三分咲きですが、間もなく満開の花が目を楽しませ、心を和ませてくれることでしょう。春は別れと出会いの季節です。学校や職場を離れ新たな環境に身を置く人、見送る人・・・それぞれの立場で心がざわめき、緊張や不安が募る季節でもあります。そんな人々の心を癒すために桜はこの時期に咲いてくれるのではないのでしょうか。

今を盛りと咲き誇る満開の桜は壮観ですが、枝を離れ、ひらひらと風に舞う花びらもまた秀逸です。先日ユニフォームを脱いだイチロー選手と重なります。筋骨隆々の巨漢ひしめく米大リーグの世界で、細身のイチロー選手の軽やかでスピード感あふれるプレーは、日本人の誇りであり、希望でした。その陰には桁外れの努力があったことは容易に想像できます。16年前、東京ドームで開かれた小学生球児とイチロー選手との交流会。参加した人が握手をしてもらったイチロー選手の手はマメだらけだったといいます。また、彼が発する言葉は高みに上り詰めた人にしか語れない重みがあり、野球を知らない人も含め、多くの人が彼の生き方や考え方に魅了されました。

私がイチロー選手の言葉に注目し始めたのは、2001年、大リーグに移籍した初年度、ア・リーグ MVP、首位打者、新人王に輝いた年のオフのことです。

### **「自分のグローブやスパイクは自分で磨ける選手になってください。」**

これは、シアトル市内の小学校で「イチロー選手のような一流選手になるにはどうすればいいのか」という小学生からの質問に対する答えです。技術の向上や練習のやり方ではなく、人として、またスポーツマンとして野球に向き合う姿勢を説いたのです。心・技・体の順番どおり、まずは人間性（心）を高めることをおろそかにしては、技術の向上はあり得ないということだと思えます。

### **「人より頑張るなんてできない。自分の限界をちょっと超えることを繰り返す。その積み重ねでしか自分を越えられない」**

これは、引退会見において「生きざま」について問われたときの答えです。イチロー選手にとって、ライバルは他人ではなく過去の自分だったのです。私たちはすぐ他人と比較し、優越感に浸ったり、やる気をなくしたり・・・心を疲れさせていないでしょうか。努力とは、自分と向き合い、昨日の自分を超越するためにするものなのです。

間もなく「令和」という新しい時代の幕開けです。皆様にとりまして健やかで笑顔があふれる1年となりますようにお祈りいたします。口加高校は皆様のご期待に沿えるよう一歩一歩前進し、進化してまいります。今年度も宜しくお願い申し上げます。

### **「小さいことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただひとつの道」**